



### ★海の安全教室：7/8★

名護海上保安署の職員が来校し、海の安全についての講演会が各学年毎に行われました。生徒たちは、リーフカレント（離岸流）などの動画を見ながら、海の危険性や海に入るときに気をつけなければならないことについて考えを深めることができました。

※「講演で印象に残っていること」や感想について～生徒回答～

- ・離岸流は流れが速いため、抜け出すのは相当難しいこと
- ・高校生が離岸流に流され死亡したこと・海に入るときは天気や自分の体調を知ることが大切であること・流されているときは離岸流が弱いところまで流され、浜と平行に泳ぐと抜け出せるということ・海に行くときには天気予報を見たり泳いでも大丈夫なのかを確認して泳ごうと思いました。自分はどれだけ泳げるのかや体調を考えて行動しようと思いました。実際に離岸流にあたり友達が巻き込まれたりしたら今日の講話を生かしていきたいです。



### ★第66回沖縄県中学校相撲競技大会：7/13★

うるま市具志川ドームで行われた県中学校相撲大会に、本校1年の宮原金太郎さんが個人戦に出場して4位となり、九州大会への出場が決まりました。おめでとうございます！



**個人戦4位**  
**宮原金太郎**

### ★重量挙げ全国中学校選手権：7/14★

テレビや新聞報道等で話題となっておりますが、茨城県で行われた全国中学校選手権で、本校2年の比嘉歩さんが出場し、全国優勝を果たしました。おめでとうございます！



**男子61kg級1位：比嘉歩**  
スナッチ108\*、ジャーク118\*、トータル226\*。  
※3種目全てで日本中学新記録

### ★少年の主張大会：7/9★

本部町少年の主張大会がもとぶ文化交流センターで行われ、本校から3年生の喜納優梨亜さんが発表者として参加しました。優梨亜さんの落ち着いた丁寧な表現は、大会に向けて朝や放課後などの地道な練習の成果が感じられるものでした。町代表への選出とはなりませんでしたが、日頃の学校生活から感じた課題に向き合ったいい発表でした。優梨亜さんありがとうございました！



#### 【生徒の発表文】※一部修正・抜粋

一人を救うその一言 - 本部中学校三年 喜納優梨亜  
「別にいいじゃん」

普段何気なく使っている言葉だと思います。しかし、私にとって大切な言葉に変わりました。それは、一人の生徒を救った言葉だからです。

みなさんは、差別についてどう思いますか。家族や友人と差別について話したことはありますか。その中で誰もが「差別はしてはいけない」「差別はなくなってほしい」と差別に対して反対の意見を言うでしょう。それなのになぜ差別はなくなるのでしょうか。それは、身近でおこる小さな差別の積み重ねがあるから無くなるのだと私は考えました。

私の学校には、同級生を面白半分からかう生徒、指をさして友達同士で笑う生徒など馬鹿にするような発言や行動をする生徒がいました。その生徒は聞こえないふりをしているようでしたが、悲しそうな表情を何度か見せることもありました。私は、その生徒が間違ったことをしているのではないと、頭ではわかっていたつもりでしたが、からかいや冷やかしの止める声かけができませんでした。私は次第に、からかっている生徒達から距離を置くようになりました。

・・・裏面に続く・・・

・・・続き・・・

ある日の登校時、いつものようにからかい始めた数名の生徒に対して、ある生徒が「別にいいじゃん。」と、その生徒をかばうように言いました。

私が言いたかった言葉よりもとても短くて簡単なはずのその言葉が私の頭から離れなくなりました。この言葉を聞いて、納得したかのようにその生徒へのからかいは無くなりました。

きっと、みんな差別はだめだとわかっているはずなのに、無意識のうちにからかってしまったからなのだと思います。

「別にいいじゃん」

たった八文字の言葉で人の心を救うことができるのか。私はその日からずっと考えさせられる日々が続きました。

最初にその生徒がからかわれている所を見たときに声をかければよかった。からかっている生徒達と距離をとるのではなく、正々堂々と自分が思っていることを言えばよかったと悔やみました。一声かけていればその人が傷つく時間も減らせたのかも知れない。そんな後悔が残る出来事でした。

学校だけでなく、今世界中でインターネットの普及によりSNS等のトラブルや差別的発言が大きな問題になっています。このような差別が人の夢や人生を狂わせる恐れがあることを私たちは気づかなければなりません。

「差別をなくしたい」これは誰もが思うことです。しかし、その思いだけでは簡単になくすことはできません。差別をなくすためには、一人一人の個性を尊重することが大切です。誰一人として同じ人はいないし、それぞれ違うから一人一人の良さがうまれてくるのではないのでしょうか。互いの違いを認め合うことが差別をなくす第一歩だと私は考えます。

私には将来医者になるという夢があります。医者は、知識と技術で人の命を助けることができます。しかし、あの時の「別にいいじゃん」には、人の命だけでなく、心も救う力がありました。ささいな一言で、私たちの大切な仲間が居場所を失うことなく、安心して学校にいられるようになりました。この出来事から、私は困っている人に寄りそい、命と心を救うことのできる医者を目指したいと強く思うようになりました。

「別にいいじゃん」その魔法の言葉を当たり前のように使える人になりたい。そして、その言葉を多くの人ができる社会を作りたい。みなさんも、差別のない社会を一緒に作っていきませんか。